

定額給付金をNPO(民間非営利団体)活動に寄付しませんかーそんな呼び掛けが全国的に広がっている。NPO法人「ドネーションシップわかちあい」(京都市伏見区)も、そう提案する団体の一つ。「今本当に困っている人のために使おう」と使途を国内の生存と貧困に限定し、給付金を募るキャンペーンを始めている。

(声原千晶)

わかちあいは「困ったときはお互いさま」という精神で、代表理事の立川さきさん(声)を中心に二年前に発足した。会員はインターネットを介して広がり、九州から北海道まで百十人。愛知や岐阜にも計七人いる。

これまで集めた会費や寄付計二百五十万円をアフリカの貧しい村の無料診療所や大阪の野唄者問題の支援に使ってきたほか、会員向けに活動内容の講演会も企画。立川さん自身、難病

の娘を抱えたときにネットを通じた交流に救われた経験を持ち「単なる寄付でなくお金に温かさを込めた」と奔走してきた。今回のキャンペーンは「派遣切りやホームレスは人ごとでない。給付金を有効に使えないか」との会員の声がかきつけ。集めた給付金は必要経費(3%)を除

関西発

京都のNPO法人

困窮先救う寄付募る

給付金分かち合おう



「定額給付金を本当に困っている人に役立てられたら」と話す立川さん(京都市伏見区)

き、雇用や自立支援に役立つ区響も報告するといった。理事会で信頼できるとして、愛知県尾張旭市の主婦(声)もは家族四人分の

ので、困っている人に役立ててほしい」NPOへ給付金の寄付を呼び掛ける動きはほかにもある。三月十八日には全国の八十団体が協力して「定額給付金基金」(東京都港区)を新設。教育や途上国支

ち、自分おての一万二千円を寄付する予定だ。「兵庫県西宮市に住んでいたら、阪神大震災も経験した。これまでいろんな人にお世話になりながら二人の子供を育て上げた。自分たちはなんとか豊らせている。援など分野別で寄付を受け入れ、すでに百人以上から約三千六万円を集めた。月末には「定額給付金をNPOへの寄付に」関西ネットワーク」(大阪市福島区)が発足し、ばらまかれたお金を、市民が取り組む共活動に集め直すお手伝いをしたい」と意気込む。長野県NPOセンターも同様の活動を始める予定という。立川さんは「給付金には当初七割の人が反対していた。年末の東京の派遣村の風景に共感した人も多い。寄付をするしないにかかわらず、私たちの活動が各家庭での給付金の使い方を見直す機会になればうれしい」と話している。わかちあいのホームページは次の通り。http://donationship.org